

山麓探偵団通信

3・4月号

なんと、山中湖村が全国で一
番寒い一日だと報道された三月十一
日の翌日が、山麓探偵団の活動予
定日だった。それも、みんなです
ノウシュー」という、とんでもな
い、活字を見ただけで、首がちぢ
みそうな企画。

はたして翌朝も極寒で、正直、
起きたくないなあ。今更、法事
の言い訳はきかないから、なんと
か仮病を使えないだろうか。こん
な寒い日は、できれば一日中寝て
いたい」と、内心どころか、全身
がその声「だれの声かな？」に反
応して、体が動かない。それでも
起床できたのは、なぜだろう？

集合場所に向くと、キャンセ
ルなしの七名全員参加、いやあ、
スタッフである自分の怠け心が恥
ずかしい。しかし、口々に「寒い
ですね」が挨拶代わり。寒いのは、
だれにも同じだとわかる。
二台に分乗して、東富士の演習場
脇をぬけ、一路表富士の須山御胎
内に向かう。一面真っ白な森の中
を、二匹のりすたちが追いかけっ
こしていて、思わず楽しそうだな

とスノウシューを装着。一部凍結
した登山道から倒木の多い森をぬ
け、御胎内神社で一呼吸。体がぼ
かぼかして、心地よい。立て看板
に、幕岩まであと40分とあり、
気もちが一瞬なえる。通常路で4
0分とは、雪道では1時間以上か
かるにちがいない。はたして行け
るかな。りすが楽しそうに見えた
のは、繁殖の季節だからで、かん
たんにとその気になった自分の浅は
かさに呆れる。



でも、伊藤浩美団長の、きょう
は目的地はありませんから、行け
るところまで行ってみましょう」
の一言に、ほっとして、歩き始め

る。ますます体がぼかぼかして、
目先の目的であった昼食をすませ、
その後すぐに出発して、幕岩が少
し先に見える地点まで一気に歩け
た。雪の中に現れた幕岩は、軟弱
な現代人に、まさに孤高の英雄し
さを見せてくれたように思える。
あるいは、御胎内も幕岩も、数々
の風雪や土砂災害により、常に姿
かたちを変え、痛々しさを見せて
いるとも考えられる。

しばし眺めた後、下山すること
になった。スノウシューを装着し
て、森の中を下っていくのは、た
しかに困難だが、なんだか不思議
な楽しさというか、愉快的気分な
なった。もっと適切な形容がない
ものかと、あれこれ考えていたが、
けっきょく思い当たらなかった。
すべての音を吸収してしまう雪の
静まり返ったその中にいられるこ
と自体が、うれしかった。

下山中の御胎内で、最後の休憩を
とり、そこでみなさんの感想をう
かがったのだが、「様に笑顔で、
気もちがよかった」 欠しぶり
に体を動かして解放感があった」
ひとりでは来られないので、背
中を押してもらってよかった」ウ
オーミングアップできた」など、

苦しくも楽しめた実感が語られた。
家にいれば、ただ寒いだけの一
日を、こうして予想外の達成感に
いざなってくれた伊藤団長、そし
て背中を押し合ったみなさんに、
あらためて感謝を申し上げます。

N・H

第239回 探偵団活動「案内

春の山を「一緒に歩こう」

映像カメラマンの伊藤浩美氏を
団長に、御坂山系のひとつである
釈迦ヶ岳に行きませんか！

・開催日 四月十六日(木)

・集 合 午前9時30分に富士

吉田道の駅

・参加費 1800円

・持ち物 昼食・防寒着・マイカ

ップ・雨具・任意でス

トック・双眼鏡など

◇ ◇
問い合わせ・申し込みは三日前
までに、メールか電話でお願いし
ます。

発行 山麓探偵団 事務局

山梨県山中湖村平野 一六九八

電話 〇五五五・六五・七〇三三